

## 問題【社会】

徳川家康や江戸幕府に関する次の問いに答えましょう。

- (1) 関ヶ原の戦い以前より徳川家の家臣だった大名を何と言いますか。
- (2) 大名統制のために1615年に出された法律を何と言いますか。
- (3) 大名に1年おきに江戸と領地を往復させた制度を何と言いますか。
- (4) 1615年に朝廷の権威を抑制するために出された、17条からなる法律を何と言いますか。

## 豆知識 雑学コラム

### 太平を築いた徳川家康②

関ヶ原の戦いを経て江戸幕府を開いた徳川家康。その後、江戸時代は長く続いていくのですが、どのような政策を行ったのか見ていきましょう。

織田信長、豊臣秀吉の二人に対して、一番の違いは後継ぎ問題ではないでしょうか。権力の引き継ぎはどの時代を見ても大なり小なり問題が起こります。しかし、家康は自身が征夷大將軍になったあと、2年で將軍職を秀忠に譲っています。これは自身が亡くなったあとも、徳川家が征夷大將軍を継いでいくことを世に知らせることにつながっています。後継ぎ問題を事前に済ませておいたことは大きかったと思います。

次は大名や朝廷の統制についてです。江戸幕府は武家諸法度という制度を出しています。家康と秀忠の時には、新しく城を造ることを禁じて婚姻を許可制にし、3代家光の時代には1年おきに江戸へ赴くことを定めた参勤交代などを決めました。武家諸法度に違反すると厳罰が下されていることから、大名の統制に大きな役割を果たしました。朝廷権力の制限については、朝廷や西日本を監視する京都所司代という役職の新設や禁中並公家諸法度を決めました。

農民の統制については、「百姓は財の余らぬように不足なきように治むる事道なり」（本佐録）とあります。農民に贅沢をさせないという方針を決めるために出されたなど、解釈には様々な説があります。

このほか、様々な身分制度や諸外国との関わり方などをみても、いかに家康や江戸幕府が権力の統制や幕府の権威を高めるための政策をとっていたかがわかります。いつの時代も法や制度をしっかりと整えることが必要ですね。

## 【解答】

- (1) 譜代大名 (2) 武家諸法度 (3) 参勤交代 (4) 禁中並公家諸法度